

①路線バスの換気性能は高い(窓を閉めていても約3.5分、窓を5cm開けると約2.5分で換気。エアコンフィルタの能力向上により、窓開けしなくても約2分で換気可能。)

②運転者・乗客のマスクの着用の効果は極めて大きい。
ことが分かりました。

エアコンの防塵フィルタをエアロゾルフィルタに交換することで、真冬や真夏など窓を開けづらい季節でも窓開けと同じような換気ができることとなります。

※詳細については、下記リンク先をご覧ください。

→ <https://www.r-ccs.riken.jp/jp/fugaku/corona/projects/tsubokura.html>

(2) 第11回国際海上コンテナの陸上運送に係る安全対策会議を開催しました！
～船により輸出入されるコンテナを積載する車両の横転事故等防止に向けて～
(新着情報)

国土交通省では、「国際海上コンテナの陸上運送に係る安全対策会議」により、国際海上コンテナの荷主、船社、取次事業者、ターミナルオペレーター、トラック事業者等の関係者と事故防止に関する情報共有や意見交換を行っております。この度、第11回国際海上コンテナの陸上輸送に係る安全対策会議を開催しました。

○主な内容

- ・R2年の国際海上コンテナの横転事故は5件に減少
- ・トラック協会非加盟事業者へのアンケート結果
- ・安全輸送マニュアルの改訂により、33の積付例と気をつけるポイントを新たに追加

※会議資料については、下記リンク先の「第11回（令和3年3月3日）」をご覧ください。

→ https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk2_000022.html

(3) 「雪道での立ち往生に注意！」(パンフレット)の作成について
—大型車の冬用タイヤとチェーンの注意事項に関するパンフレットを作成しました—

(配信日：R3.2.19)

・昨年末以降の大雪により、関越道、北陸道等において多くの大型車両が立ち往生したことで、深刻な交通渋滞や通行止めが発生しました。

・このような事案を受け、国土交通省では、本年1月に自動車関係団体、国交省及び警察庁から構成される勉強会を設置し、立ち往生の原因や防止策について技術的に分析・検討を進めてきました。

・今般、勉強会で得られた知見を基に、大型車を使用する事業者及びユーザーを対象に、冬用タイヤ及びチェーンの注意事項をまとめたパンフレットを作成しましたので、お知らせします。

○ パンフレットに記載している注意事項の例

・路面を覆うほどの過酷な積雪路・凍結路においては、スタッドレス表記(国内表記)又はスノーフレークマーク(国際表記)が表示されている冬用タイヤを全車輪に装着してください。

・降雪時には、立ち往生する前に早めのチェーン装着を心掛けましょう。立ち往生した後の装着は極めて困難です。

・冬用タイヤ及びチェーンのいずれも性能限界があり、万能ではありません。運行前に道路・気象情報を確認し、運行の可否や経路を検討してください。

※パンフレットについては、下記リンク先をご覧ください。

→ https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha08_hh_003978.html

(4) 事業用自動車の健康起因事故の防止に向けて

(配信日：R3.2.12)

今般、令和元年の健康起因事故件数がまとまり327件となりました。平成30年の363件よりは減少しましたが、依然として増加傾向となっています。

統計を取り始めた平成25年からの累計で事故の3割で心臓疾患、脳疾患、大動脈瘤及び解離が原因となり、そのうち4割以上の運転者が亡くなっています。運転者の健康管理については、引き続き徹底を図るようお願いします。

国土交通省では、最近の健康起因事故の発生状況等について情報共有を図るとともに、主要疾病の早期発見に有効なスクリーニング検査の普及方策について検討するため、令和2年度事業用自動車健康起因事故対策協議会を2月5日に開催しました。

当該協議会の資料につきまして、ホームページに公開しております。

→ https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidousya_ansei.html

(5) 冬用タイヤの安全性を確認することをルール化しました

～雪道では、使用限度を超えた冬用タイヤの使用は厳禁です～

(配信日 : R3. 1. 29)

昨年末以降の大雪により、関越道や北陸道において多くの大型車両が路上に滞留する事案が発生したことを踏まえ、バス・トラック運送事業者は、雪道において適正な冬用タイヤを使用していることを確認しなければならないこととしました。

1. 改正の概要

(1) 「貨物自動車運送事業輸送安全規則の解釈及び運用について」の一部改正
・整備管理者は、雪道を走行する自動車のタイヤについて、溝の深さがタイヤ製作者の推奨する使用限度※よりもすり減っていないことを確認しなければなりません。

・運行管理者は、雪道を走行する自動車について、点呼の際に上記事項が確認されていることを確認しなければなりません。

(2) 「旅客自動車運送事業運輸規則の解釈及び運用について」の一部改正

・乗合バス・貸切バスについて、上記(1)と同様の改正を行います。

※国内メーカー等の冬用タイヤでは、使用限度の目安として、溝の深さが新品時の50%まですり減った際にプラットホームが溝部分の表面に現れます。

2. スケジュール

公 布 : 令和3年1月26日

施 行 : 公布の日

※詳細については、下記リンク先をご覧ください。

→ https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha09_hh_000264.html

(6) 降積雪期における輸送の安全確保の徹底について

(配信日 : R2. 12. 18)

本格的な降積雪期を迎えた中、今般、関越自動車道などにおいて多数の車両が立ち往生する事態が発生いたしました。

自動車運送事業者の皆様におかれましては、特に積雪・凍結等の気象状況を踏まえ、タイヤチェーンを携行し早期に装着するなど、次の事項について徹底していただき、降積雪期における輸送の安全確保に万全を期すようお願いいたします。

(1) 気象情報(大雪や雪崩、暴風雪等に関する警報・注意報を含む。)や道路における降雪状況等を適時に把握し、以下の対策を講ずることにより、輸送の安全確保に万全を期すこと。

①災害発生時の社内における連絡体制を改めて確認すること。

②積雪・凍結等の気象及び道路状況により、早期にスタッドレスタイヤ及びタイ

チェーンを装着するよう徹底を図ること。

③点呼時等において、運行経路の道路情報、道路規制情報、気象情報に基づき、乗務員に適切な指示を行うこと。

④積雪・凍結時における要注意箇所の把握に努めること。

⑤気象状況が急変し、安全運行が確保できないおそれがある場合は、バスの運休、タクシーの配車の休止、宅配便の集配荷の休止など、サービスの停止に係る情報については、ホームページ等を通じて利用者に分かりやすく情報提供すること。

⑥乗務員に対して、スリップの要因となる急発進、急加速、急制動、急ハンドルを行わないよう指導するとともに、道路状況、気象状況に応じた安全速度の遵守、車間距離の確保について指導を徹底すること。

(2) スタッドレスタイヤへ交換する等タイヤ交換時に、ホイール・ボルトの誤組防止、締付トルクの管理、交換作業後の増し締め等を確実にすること。

(7) 事故の恐ろしさを知って！大型車の車輪脱落事故～大型車の車輪脱落事故の危険性を知っていただくための啓発ビデオを公開しました～

(配信日：R2.12.18)

「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン」の活動の一環として、大型車の車輪脱落が死亡事故につながる危険性があることを啓発するビデオを、YouTube国交省公式アカウントに公開しました。

毎年、冬用タイヤに交換するこの時期に大型車の車輪脱落事故が多く発生していることから、本年11月から「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン」を実施しているところです(10月30日プレスリリースを参照

https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha09_hh_000261.html)。

今般、同キャンペーンの一環として、大型車のタイヤが人体に衝突するとどのような事態になるかを実験し、車輪脱落事故の恐ろしさを実感してもらい、適切なタイヤ交換作業及びタイヤ交換後の確実な保守管理の実施を呼びかける啓発ビデオを公開しました。

大型車ユーザーにおかれましては、人命を奪う悲惨な事故を繰り返さないためにも、是非ご覧いただき、事故防止対策の積極的な取組をお願いします。

※安全啓発ビデオは、以下のリンク先で公開しています。

→ <https://youtu.be/BE6-rcq81C8>

(8) 換気シミュレーションを踏まえたタクシー車内における新型コロナウイルスの感染防止対策について(要請)

(配信日 : R2. 11. 27)

今般、スーパーコンピュータ富岳を用いて、タクシーの車内における換気性能や飛沫拡散の状況についてシミュレーションが行われました。

シミュレーションの結果では、タクシーの換気性能は高いこと、運転者・乗客ともにマスク着用の効果は極めて大きいこと等が確認されました。

タクシー車内における感染防止対策については、今般のシミュレーションの結果を踏まえ、車内での感染を防止するために以下の取組を着実に実施いただきますようお願いいたします。

1. エアコンを「外気導入モード」に設定し、風量を通常レベル以上とすることにより、車内換気を徹底することとし、「内気循環モード」は車内での感染リスクを高める可能性があるため可能な限り利用を避けること。

なお、「外気導入モード」について乗客から苦情が寄せられる場合には、乗客の安全・健康を損なわないよう配慮しつつ、スーパーコンピュータ富岳のシミュレーションの結果等も踏まえ、「外気導入モード」による車内換気が有効であることを丁寧に説明して理解・協力を求めること。

2. 運転者又は乗客が咳をした場合の飛沫の飛散を防ぐため、運転者のマスク着用を徹底するとともに、乗客にもマスクの着用について理解・協力を求めること。

〈参考・スーパーコンピュータ富岳によるシミュレーション結果（理化学研究所ホームページ）〉

→ <https://www.r-ccs.riken.jp/jp/fugaku/corona/projects/tsubokura.html>

(9) 運行中の貸切バスの法令遵守状況を調査～今年度も覆面添乗調査を実施～
(配信日 : R2. 11. 27)

国土交通省では、民間の調査員による運行中の貸切バスの法令遵守状況を調査しています。

今年度においては、令和2年12月から令和3年3月にかけて実施します。

国土交通省では、貸切バス事業者の法令遵守の状況を確認するため、監査官が営業所に立ち入る臨店監査や、観光地や空港等のバス発着場において街頭監査を実施しています。

上記に加え、民間に調査を委託し、実際に運行する貸切バスに調査員が一般の利用者として乗り込み、貸切バスが運行中、適切に休憩を取っているかや、交替運転者が必要な場合に確実に交替しているか等、法令遵守状況などについて調査し

ています。

本調査において法令違反のおそれが確認された事業者に対しては、後日、国による監査を実施します。

1. 今年度の調査予定

- ①調査対象者：貸切バス事業者※無通告により実施
- ②調査実施者：国土交通省自動車局が委託した者（民間）
- ③実施時期：令和2年12月～令和3年3月
- ④調査項目：区域外運送の有無、休憩時間の確保、シートベルトの装着の案内や装着の状況、交替運転者の交替状況、事業者名等の車内外表示など

2. 昨年度までの調査結果

本調査は、平成29年度より実施し、これまでに2事業者について法令違反のおそれが確認されたため、当該事業者の営業所に監査を実施しました。その結果、いずれの事業者についても法令違反が確認されたため、2事業者とも行政処分を実施しました。

(10) 事業用自動車の運転者に対する飲酒運転の防止等法令遵守の徹底について
(再要請)

(配信日：R2.5.22)

事業用自動車の運転者に対する飲酒運転の防止については、「事業用自動車総合安全プラン2020」において事業用自動車における飲酒運転ゼロを目標に掲げ、様々な取組を実施してきたところです。また、昨年5月にも「事業用自動車の運転者に対する飲酒運転の防止等法令遵守の徹底について」（通達）を発出し、事業者の皆様へ、特に以下の事項について周知徹底していただくよう、お願いしてきたところです。

しかしながら、昨年の飲酒運転による事業用自動車の交通事故は56件と、「事業用自動車総合安全プラン2020」を策定した2016年以降で最多となりました。

また、本年は、国土交通省への報告が求められる重大事故が、昨年同時期を上回る13件発生しています（速報ベース）。特に、5月に入り4件の事故が発生しているところです。

自動車運送事業は、今般の新型コロナウイルス感染症が拡大する中、国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な存在であり、事業者の方々に日々ご尽力いただいているところですが、こうした中で飲酒運転による事故が相次いで発生していることは、運送事業に対する社会の信頼の失墜に繋がる事態であり、誠に遺憾です。つきましては、「自動車運送事業者が事業用自動車の運転者に対して行う一般的な指導及び監督の実施マニュアル」等を活用し、飲酒運転の防止の徹底について、

対策の通知が送付されたり、その対象であることが新聞等で公表されたときは、安全・環境への影響から、その自動車の修理を行うことが必要になったということです。道路運送車両法により、自動車ユーザーは、自分の自動車が保安基準に適合するよう点検・整備する義務がありますので、忘れずに修理を受けましょう。

